

山里の小さな総合型地域スポーツクラブの大きな夢

清原 泰治

(高知女子大学文化学部教授)

高知女子大学文化学部で、私は地域文化論演習というゼミを担当している。このゼミの特徴は、学生が地域に出かけ、地域住民と語り、地域の実情をよく把握したうえで、地域を元気にするアイデアを提言にまとめて地域にお返しすることである。その中で、学生たちは地域の問題を解決するプロセスを学び、大きく成長していく。

昨年の後期、私たちは旧池川町(現仁淀川町池川地区)の総合型地域スポーツクラブ・清流クラブ池川の活性化策について検討し、報告書にまとめて提言した。

旧池川町は人口約 2000 人の小さな山里で、高齢化率が 50%を超える。その地域に、昨年 2 月に誕生した清流クラブ池川は、会員数 200 人あまりの小さなスポーツクラブである。高齢者の健康づくりを大きなテーマに掲げており、集会所を利用した健康体操教室などの事業を行っている。

実は、このクラブとゼミの関係は深い。クラブの規約と設立当初の事業計画を作成したのはゼミの学生たちである。総合型地域スポーツクラブが何かもわからないままに、規約づくりを手がけた学生たちは、試行錯誤する中で規約案をまとめ、設立準備委員会で提案した。「ようやくくれた」という、池川のみなさんの言葉に自信を持ち、その後、県内の総合型地域スポーツクラブの活性化策や規約づくりを進めてきた。当時、2 回生だった学生たちが 3 回生になり、さまざまな経験と知識を身につけて成長し、池川町に戻ってきた。

無事に設立された清流クラブ池川だが、将来が明るいかと言えば、そうではない。少子高齢化と過疎化が進む、高知県の中山間地域のトップランナーのような地域である。これ以上の会員増はそれほど期待できないし、仁淀川町からの財政支援がいつまで続くかもわからない。

では、どうするのか。そこから学生たちは活性化策づくりをスタートした。

「まず地域に出かけてみよう!そして話を聞こう!」

昨年 12 月、1 泊 2 日の現地調査に出かけた。寒い日で、椿山地区では初雪に遭遇した。しかし、その 2 日間で、学生たちが池川地区を見る目が大きく変わった。

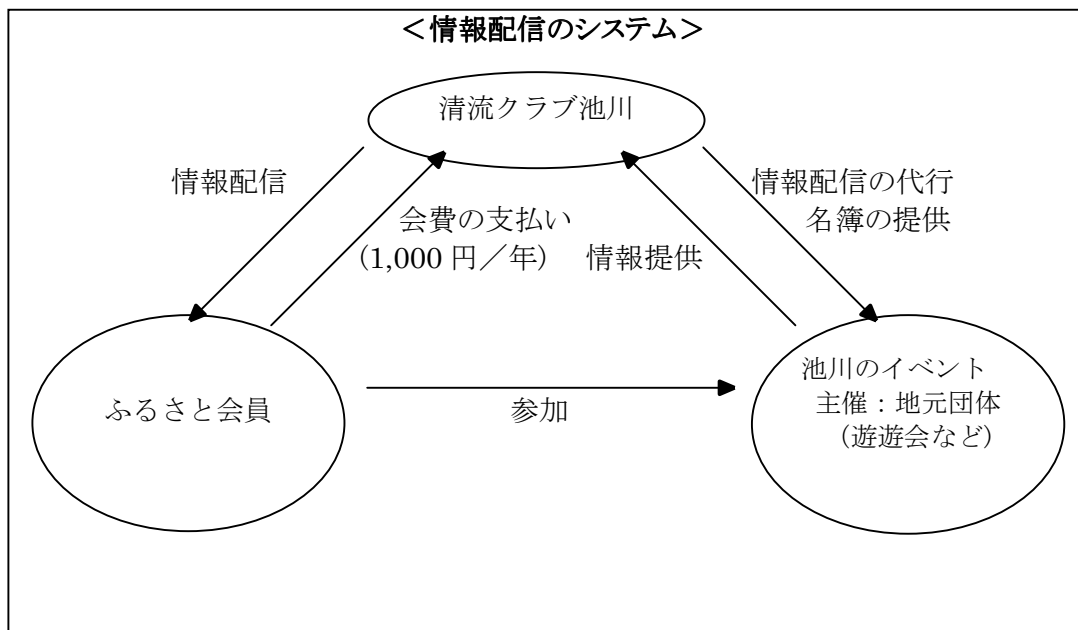


(クラブの役員と協議する学生たち)

「ここに人がいないなら、人がいるところに会員を増やせばいいのではないか。」

こういう発想をするとところが、学生のおもしろいところだ。「ふるさと会員制度」なるものを思いつく。

“池川ファン”を獲得し、年会費 1000 円をいただく。会員には池川でのイベント情報が、清流クラブ池川から配信される。イベント情報は、清流クラブ池川主催のものに限らず、池川地区で行われるすべてのイベントが対象になる。清流クラブ池川は、参加者を募集し、その参加者名簿を主催者に渡す。イベントにはふるさと会員や会員が誘ってくれる関係者が参加し、まちづくりイベントとしてにぎわうことになる。



池川地区のまちづくり団体が苦手なのは広報である。その部分をスポーツクラブが担うことによって、まちづくりに参画することになるし、会費を稼ぐことができる。200 人のふるさと会員が誕生すれば、クラブが町から受けている補助金 20 万円と同額の会費が手に入る。実にうまい仕組みだ。

提言には、池川地区の旬の情報の配信や、地場の特産品の通販も含まれていて興味深い。

3 月 13 日、清流クラブ池川に提言書が渡された。クラブのみなさんはたいへん喜んでくださったが、さて、実際にやるとなるとなかなかたいへんだ。

しかし、提言のうち、茶摘み体験はさっそく実施されることになった。運営委員の一人が茶園を経営されていて、一番茶は無理だが、二番茶なら対応できるという返事。この 6 月に、茶摘み体験が行われる。

朝、池川地区に着くと、午前中は茶摘み体験ができる。昼食は、地元の婦人会がメンバーになっている遊遊会の提供する昼食。地元の食材を生かした料理には定評があり、これはたいへん期待できる。午後、池川地区の自然を肺いっぱい吸い込み茶園に戻ってくると、自分が摘んだ茶が飲めるように加工されている。そのお茶をいれて、「ティータイム」。パッキングされたお茶は、おみやげとして持ち帰る。参加費は 3500 円。リーズナブルだと思う。

地域文化論演習の受講生もたくさん参加することになっている。

この構想について、4 月 15 日、土佐を元気にすることを目的に昨年設立された土佐学協会の研究会「土佐学大会」で、プロジェクトリーダーの黒谷朱希さん(4 回生)が発表した。出席者からは、高い評価をいただいた。



(第1回土佐学大会で研究成果を発表する黒谷さん)

山里の小さな総合型地域スポーツクラブが、大きな夢を見ている。期待できる効果は交流人口の拡大。スポーツクラブがまちづくりの核になる。総合型地域スポーツクラブの本質の一つはここにあるのではないだろうか。